

### 石川たえ府会議員の情勢学習の要旨

#### 参議院選挙の情勢について

統一地方選挙で維新が圧勝しました。今、堺の市長選挙が行われており、連日恐ろしいことになっていきます。共産党は自民党を離党し立候補された方を自主支援しています。私達がビラをまいたり、メガホン宣伝するのを維新の人達が動画に撮って警察に通報し大阪府警が毎日出勤してくる。また、妨害が次々と行われ、通るだけで暴言を吐かれるなどなりふり構わず堺市長選挙をとりに来ている。これをステップにし、ジャンプで国政大きな力を持てるようになるかと彼らが考えているのではと連日ひしひしと感じているところです。参議院選挙で安倍政権をそのまま続けさせるのか、それを支える尖兵の役割の維新を勝たせるのか、それとも希望の持てる新しい日本を創ろうとしている野党共闘の勝利と複数区で日本共産党の躍進を作ることとで新しい扉を開けるようになるかが今度の選挙で問われていると考えています。

争点は大きく2つだと思っています。1つは消費税10%。これを止めさせられるかどうか選挙戦にかかっている。景気は緩やかに回復していなかったのは景気動向指数が「悪化」とハッキリしめたことです。それでもなんで10%をやるのとの問いかけに「子育てが応援できる」と政府は答えます。しかし「子育て応援」は消費税上げなくてもその気になればできます。以前は「消費税増税の財源を子育てに充てるから消費税増税やむなし」が多かったが、いま景気は悪化していることがはっきりして世論調査を見ると「消費税10%増税は困ります。景気がより悪くなり、生活が不安です」が増えてきている。江坂でPUBをやっている友人から「消費税を転嫁してもしなくても赤字になってしまふ。これからどうやって商売やっていけばいいのか不安で眠れない。」と話してくれました。これはこの方だけの問題ではないと思います。

「政治のせいだ何故、店をたたまなあかんねん！」この思い。なんとか店を続けられるのには「政治をかえなくては！」の思いで皆さんと力合わせたいと思っています。学費の無償化、保育料の無償化に充てるというのが学費の対象は年収270万円未満の方で全学生の1割。保育料は3年間だけで保育料のみが無償で給食費や光熱費などすべて保護者負担になり、非課税世帯では保護者負担がいまより増額となるケースもあります。もう一つの問題は公立保育園の無償化は市町村が負担しなければならず、できない市町村は保育園の民営化を進める。これが学費、保育費の無料の実態。消費税10%は子育ての為の話はまったく信用できない。くらしを破壊し、日本経済を破壊する消費税10%増税はやるべきでないとの声をこの選挙で皆さんと一緒に上げていきたい。2つめは憲法改正。安倍首相は憲法改正を何としても変えたい。そのため自民党総裁のルールを変えて居座って2021年の任期までに憲法改正考えている。それが憲法9条の第3項に自衛隊を書き込むこと。書き込みされれば、自治体がいま任意で提出している子どもたちの名簿が義務化、強制化される。憲法の闘いは憲法をまもろうとせず、憲法を変えようとする人々から憲法を守る戦いです。

最後に参議院選挙についてですが、4議席を6名で争う闘いでたつみコータローは法案提出、国会答弁対応など野党共闘で大切な議席です。たつみコータロー押し上げていただき、消費税、憲法、そして国民健康保険を引き下げて何より社会保障を守る新しい政治と一緒に作り上げていく決意です。

### 地域別活動交流会

6月8日、9日に全国商工団体連合会による地域別活動交流会が神戸で開催されました。吹田民商からは三役、事務局6名が参加しました。

#### 工藤 芳昭 会長

我々零細業者が要望する地域循環型営業がアベノミクス、グローバル化によって危機にさらされていることが吉田敬一氏の講演でよく理解できました。「安倍につぶされてたまるか」の気概を持つて循環型経済を取り返すためにも、業者が生き残れるようにするために民商の運動を業者の経営交流を密に取り組んでいかなければと思います。分科会は「相談活動と拡大運動」に参加しました。大阪羽曳野が3年連続で会員現勢を増やしているという報告を聞いて素晴らしいと感じました。常に目標を立ててそれに向かって、役員・事務局が共有しながら拡大行動をしていること。大阪城東民商では若い青年部や同じ趣味を持つ会員同士に民商に集まってもらうという発言がありました。吹田でもようやく青年部が昨年から少しずつ動き出しています。そこへ期待すると同時に民商を上げてバックアップしていきたいです。

#### 岡崎 栄一郎 副会長

「商工新聞中心の活動と班・支部建設」の分科会に参加しました。組織配達・集金を会員の手で行う取り組みの苦労や崩れかかっている班や支部の立て直しへの努力。商工新聞の紙面を利用しての対市交渉や融資相談などに役立てて活動している発言を「すごいな」と感心しながら聞いていました。その中で「崩れかかっている支部があり再編を考えていたがその支部に愛着を持っている会員がいる限り、単に壊してはいけない。役員を作り存続させて行くことが大事だと考え、その方向で頑張っている。仲間を信頼し頼っていけばどんな困難も乗り越えられる」(垂水民商)との発言にハッとさせられました。会員から会員まで遠く離れている地域でさえ役員が足を運び対話を重視し、一人ひとりの会員に活動参加を呼び掛ける努力がなされています。第4回地方別交流会で学んだ経験をこれからの民商運動に大いに役立てていきたいと思っています。

#### 塚本 哲 副会長

「業者青年に魅力ある民商づくり」という分科会において、活発な活動をしている民商の動向を知りたくて参加してきました。参加者の発言の中で魅力ある青年部活動している民商は会員も増勢しているようです。青年部の活動は会内にとどめず、地域の祭りや行事に単独で参加するなどの自主性があり、DIYイベント(手づくりでリフォームやモノづくりをする)やペットボトルで作ったカエルを飛ばし、距離を競う大会など、子供や家族を巻き込んだものから補助金獲得のための勉強会まで広く活動しているようです。ただ、その影には青年部役員の苦勞もあり、成功させるための準備はもちろんですが、参加を募ることや部員を増やすために、徹底した会員訪問をしているとのこと、成功のかけには苦勞があることを認識しました。青年部活動を活発にするには本体である親民商のバックアップが必要であると感じました。

商工新聞は経営のヒント・ヒントの知恵がいっぱい 毎週必ず届けます  
会費集金は会員の心をあしめる活動です 毎月10日までには集めましょ